



貧困や不平等、気候変動などの課題に対し、「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現に向けて、国連サミットで採択された世界共通の目標が「SDGs」です。SDGsには17の目標があります。

区では、区民の皆さんと協働し、経済・社会・環境の3つの側面からSDGsの達成をめざし取り組んでいます。このコラムでは17の目標ごとにその取り組みの一部を紹介していきます。

【担当課】 環境課 ☎03-5654-8227



HATSU-SDCS

12 つくる責任
つかう責任



目標12 つくる責任 つかう責任

持続可能な生産と消費を確保するためには、無駄なエネルギーや資源の消費、過剰な生産をストップする必要があります。日本では、年間約600万トン、1人当たり毎日お茶碗約一杯分のまだ食べられる食料が捨てられており、家庭から出る食品ロスを減らすことも重要な取り組みのひとつです。

区の取り組み

区役所内に家庭で余っている賞味期限内の食品などを持ち寄るフードドライブの常設窓口を設置し、集まった食品は、社会福祉協議会と連携して子ども食堂などにお渡ししています。

また、東京聖栄大学と連携した「食べきり・使いきりメニュー」の作成や、食べきれぬ分だけ注文できる「かつしか食べきり協力店」のPRを行い、食品ロス削減に取り組んでいます。



▲フードドライブ受付窓口（リサイクル清掃課内）

私ができること

- ▶ 買い物は必要な分だけにする
- ▶ 食材の食べきり・使いきりを心掛け、フードドライブも利用する
- ▶ 使い捨てではなく、長く使える商品を選ぶ

13 気候変動に
具体的な対策を



目標13 気候変動に 具体的な対策を

近年、酷暑や集中豪雨など気候変動の影響は私たちの身近な生活に及んでおり、世界全体が危機的状況になっています。気候変動の原因となっている温室効果ガスを減らすことはもちろん、今後発生する災害などに備えることも大切です。

区の取り組み

区は、「2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロ」をめざすことを宣言しています（ゼロエミッションかつしか）。エネルギー効率の良い建物や電気自動車の普及、資源循環の高度化などに取り組んでいます。

資源循環の高度化については、使用済みペットボトルを新しいペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」に関する協定を（一社）全国清涼飲料連合会と締結しています。元の製品と同じ物にリサイクルする水平リサイクルを進めるため、協力体制を構築していきます。



▲9月3日まで区役所で実施していた、分別に関する実証実験の様子

私ができること

- ▶ 出掛ける時はなるべく公共交通（電車・バスなど）や自転車を使う
- ▶ 水害ハザードマップを確認して、災害に備える